



ふれあい感謝祭

組合員・地域のみなさまへ
日頃のご愛顧を込めて4年ぶりに開催

ＪＡひろしま呉地域本部は11月17日と18日の2日間、ＪＡの農協会館でふれあい感謝祭を開催しました。コロナ禍で中止していたＪＡまつりが4年ぶりに「ふれあい感謝祭」として復活。

6階をメイン会場として各階にブースを設置。管内ＪＡの特産品や農産物の詰め放題、ＪＡ女性部バザー、農機具、農産物品評会、セリ市に食堂、農家相談コーナーなどを設け、約1,000人の来場者で賑わいました。

6階：催物・展示販売会場

農産物詰め放題
(みかん、キュウリ、ピーナッツ)



ＪＡひろしま特産品販売



女性部バザー

ＪＡバンク広島（輪投げ）



ＪＡ共済連広島



お米のすくい取り

3階：食堂テラス（女性部）

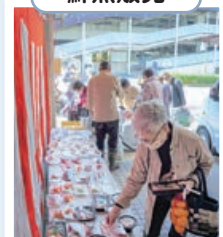
うどん、やきそば、たこやきの販売



5階：農産物品評会、出品物セリ市



鮮魚販売



こだわり健肥堆肥詰め放題



呉グリーンセンター



なるほど え〜のう! 営農情報

落葉果樹

共通事項

▼せん定
落葉果樹は11月中旬頃から、紅葉・落葉し枝がむきだしになるような状況が望ましいです。

葉色が緑色のままでいつまでも葉が残っている場合や、枝の先端部の落葉が極端に遅い状況は、枝の充実が良くないと思われます。

逆に適期よりも極端に早く落葉する多くの場合、根に何らかの障害があるものと考え、根元や根を調査してみる必要があります。

枝の充実程度によって春の出足が違ってきます。春の生育スタートが遅れないことが、理想的な収穫となる第一歩となります。

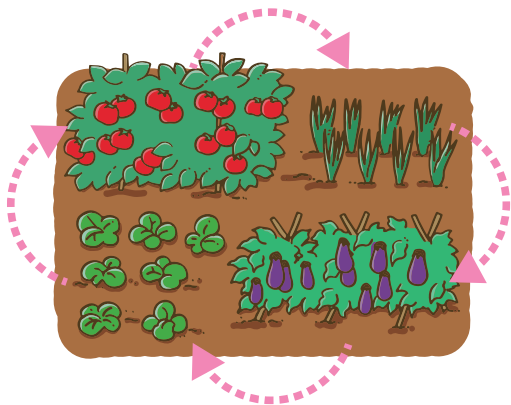
【枝の充実が不良な樹の場合】
せん定時期を早め、太枝を間引き日

家庭菜園

冬も本格的になり寒さが際立つ1月は、家庭菜園もお休みと思う方もいらっしゃるかと思います。寒い中ではありますが、冬の間もやってみたい作業をまとめました！

春野菜のための 土壌改良や作付け計画

土壌改良も様々な方法がありますが、寒い環境下では堆肥や土壌改良剤を分解させ土になじませるのに時間がかかります。冬の内に作業すること、ゆっくりと時間をかけてなじませ、春にはしっかりとした土壌を完成させましょう。



輪作を生かした作付け計画（例）

区画	1年目	2年目	3年目	4年目
区画A	① 春 ナス科 トマト、ナスなど ② 秋 アブラナ科 ハクサイ、ダイコンなど	④	③	②
区画B	② 春 ウリ科 キュウリ、カボチャなど ③ 秋 セリ科 ニンジンなど	①	④	③
区画C	③ 春 マメ科 インゲン、エダマメなど ④ 秋 アカザ科 ホウレンソウなど	②	①	④
区画D	④ 春 ヒルガオ科 サツマイモなど ① 秋 ユリ科 タマネギなど	③	②	①

また、同じ場所で同じ作物を育てる頻度が多い方は、連作障害などに注意しましょう。菜園の作付け計画を立てて、同じ科の野菜を植えないように「輪作」を心がけましょう。また、畑にお休み期間（休栽期間）を設けるのもおススメです。

当たりを良くします。過度な切り返しは枝の延伸を起こすことがあります。過去のせん定方法も思い出しながら行ないましょう。

【枝が充実している場合】
実が結実する位置を主枝に近づける目的にやや切り返しを強めに行ない生長を強くします。

また結実する枝を若い枝に更新していく必要があります。花芽の量も多くなりすぎないように調節します。

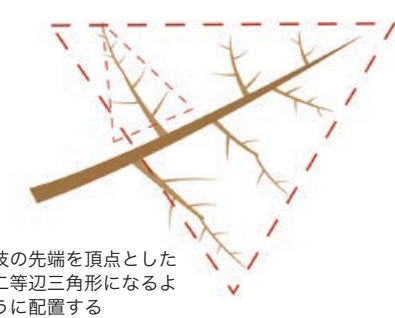


図1 枝の配置

イチジク

先月に引き続き、2月までに行ないます。

園内の清掃

せん定枝・葉・残果は、病害虫の発生源となりますので、園外に持ち出して処分しましょう。

土づくり

完熟たい肥などの有機物を投入し物理性を改善しましょう。

ただし、未熟な堆肥やバーク堆肥な

どは土壌病害の発生原因になりますので注意しましょう。

堆肥は様々な商品がありますが、JAでは『こだわり健肥』を推奨しています。

イチジクは中性に近いアルカリ性土壌（pH7〜7.5）を好みます。苦土石灰やカキガラ資材（マリンカル）を10aあたり100kg施用しましょう。

▼排水路の整備
水田跡に植栽している場合など、水はけの悪い園地は、溝切などを行ない、排水対策を行ないましょう。

カキ

せん定

樹が高すぎると、管理作業がしにくいので、樹高の切り下げを行ないましょう。3〜4年かけて、枝を下げながら下部の枝を伸長させ、実がなる位置を下層に移していきます。

カキは昨年に生長した枝の先端に花芽がつくので、枝の先端を切つてはいけません。間引き中心のせん定を行ないましょう。

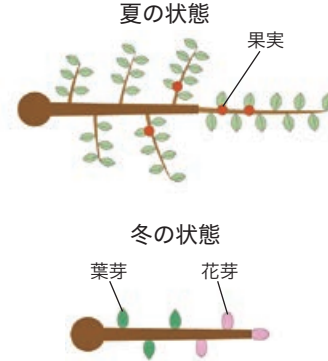


図2 カキの結果習性

▼せん定
先端が垂れ下がらないように主枝・垂主枝の先端は強く切り返し、枝を切るだけでなく、枝の誘引や添え木を行ないます。

枝が混んで日陰ができると枝がはげ上がりやすくなります。樹冠内部まで光が入るように選定を行ないましょう。

太い切り口は枯れこみが入りやすくなるので、基部から20cm程度はほぞを残して切りましょう。

モモ

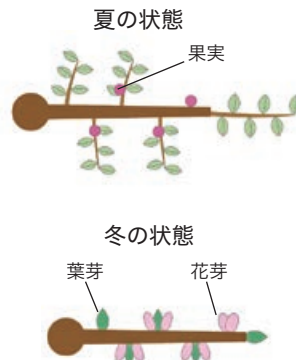


図3 モモの結果習性

MEMO

あけましておめでとつござい
ます。

果樹栽培は一年を通じて様々な作業がある中で、冬期はせん定や土づくりが主となります。

落葉果樹は、種類によって花が着く場所が異なるため、結果習性を考慮しながらせん定を行ないましょう。

また、各作業を行なうときは昨年の状況を思い出しながら行ないましょう。

タマネギ(貯蔵栽培)での 追肥のポイント

年内の生育を抑えて、1月から肥効を高めます。1月は根張りを促進して、耐寒性や葉数分化を図り、2月の抽代だい危険期に肥効を高めることで花芽分化を抑える効果もあります。

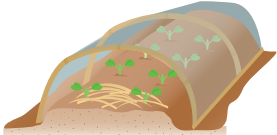
！注意！

多肥や止め肥の遅れは過剰な生育を促し、病気や害虫の発生リスクが高まります。また、貯蔵性や食味の低下につながるので、施肥の量・時期には注意しましょう。

栽培中の作物の追肥や手入れ

秋冬野菜やタマネギ、ソラマメなど越冬させて育てる作物などは冬の追肥に注意しましょう。冬は生育温度が夏場に比べ低いため、作物の成長も緩やかになってきます。それに伴い、肥料成分の吸収も緩やかになりますので、追肥のやりすぎには注意しましょう。

特にタマネギの貯蔵栽培（中生・中晩生）では、追肥がポイントになります。



MEMO

新しい1年が始まりました！
畑のメンテナンスをして、元気な野菜作りをスタートさせましょう！

令和5年度 農産物品評会

ふれあい感謝祭にあわせて、農産物品評会が行なわれ出展物が展示されました。出展数は果実の部102点、花きの部106点、野菜の部47点、穀物の部5点。各賞の入賞者は以下のとおりです。(敬称略)

賞名
受賞者名
【出品品目・支店】

果実の部 (102点)

最優秀賞

石井 芳清【いしじみかん・蒲刈】



優秀賞

沖原 正直【レモン・蒲刈(下島)】

金賞

宮東 照彦【早生みかん・蒲刈】

落海 政博【いしじみかん・倉橋東】

銀賞

片谷 司【レモン・蒲刈(下島)】

原田 茂【早生みかん・蒲刈】

高畑 淑浩【早生みかん・蒲刈(大浦)】

銅賞

山本 功次【キウイフルーツ・大古(深江)】

三原八重子【ヤマト柿・広西(広北)】

森野 聖子【ギンナン・広西(広北)】

花きの部 (106点)

最優秀賞

楠部 辰一【スターチス(スーパーピンク・大古(深江))】



優秀賞

斎藤 正紀【ケンラン(白)・呉】

金賞

田中 智【スターチス(ブルーファン・鹿川)】

田中 明【バラ(ジュミリア)・中町】

銀賞

谷 新子【葉ボタン(ファーストレディ・郷原)】

村上 浩司【鉢物(シクラメンバラードライトブルー)・大古】

堂野崎和子【小菊(秀そのか)・三高】

銅賞

小滝 正則【ガーベラ(バステイーニベネチア)・鹿川】

(有)山本農園【大菊(晃花の富士)・三高】

岡本 逸句【鉢物(菊ピンク)・蒲刈(大浦)】

野菜の部 (47点)

最優秀賞

木村 勇【キュウリ(まりん)・江田島(大須)】



優秀賞

久保田義男【ハクサイ(はれぎ)・昭和】

金賞

斎藤 信禎【サトイモ・呉】

銀賞

田中 正彦【キャベツ(おきな)・鹿川】

銅賞

平本 猛【キュウリ(まりん)・江田島(大須)】

三原八重子【カンショ(紅はるか)・広西(広北)】

穀物の部 (5点)

最優秀賞

斎藤 正紀【ハブ草・呉】



お詫びと訂正

12月5日発行の12月号呉地域版におきまして、以下のとおり誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。
呉地域版 IVページ 「江田島を知ろう」 研修旅行開催の文章
大柿地区歴史資料館・灘尾記念館及び灘尾弘吉氏の『灘』が誤っておりました。
【誤】 瀬尾 ⇒ 【正】 灘尾 (なだお)